

3 効率的な行財政運営

(1) 施策・事業の見直し

<p>現状と課題</p>	<p>市政改革プラン等で掲げた「施策・事業の聖域なきゼロベースの見直しと再構築」をほぼ実現、「施策・事業の自律的な見直しに向けての点検・精査の視点」を踏まえた各所属による自律的な改革も促進した結果、通常収支⁹⁴の状況に改善が見られるなど一定の成果を上げてきた。</p> <p>今後とも、限られた財源のもとで多様化する市民ニーズに的確に応えていくため、「ムダ」を無くし、最少の経費で最大の効果を上げるといった視点の徹底など、施策・事業の不断の見直しが求められる。</p> <p>全市的な視点から費用対効果等に課題が見られる施策・事業については、必要に応じて所属横断的な見直しを行うなど、更なる生産性の向上を図ることにより、市民サービスの向上やコスト削減につなげる。</p>
<p>戦略</p>	<p>全市的な効果の検証や費用対効果等に課題が生じている施策・事業があれば、有効性や効率性、財務諸表等によるフルコストの把握など多様な視点で点検・精査し、必要に応じて見直しを行うなど、更なる生産性の向上に取り組む。</p>
<p>取組内容</p>	<p>①施策・事業の検証と見直し</p> <p>全庁的な視点での「選択と集中」に資するよう、点検・精査が必要な施策・事業を抽出し、費用対効果（コストに応じた成果が生じているか、過剰な投資となっていないかなど）等を検証したうえで、課題の解決に向けた見直しを進める。</p> <p>施策・事業の検証と見直しにあたって、フルコストの把握など多様な視点で点検・精査が行えるよう新公会計制度による財務諸表のデータを活用できる仕組みを構築する。</p> <p>②各所属長のマネジメントによる見直し</p> <p>予算編成時にシーリングを設定するなど、各所属長のマネジメントのもと、PDCA⁹⁵サイクルを徹底し、「選択と集中」を進める。</p>
<p>めざすべき状態</p>	<p>大阪市が実施する施策・事業において、「市民サービスの向上」、「コスト削減」、「スピードアップ」が不断に進められ、成果（費用対効果など）や外部環境の変化（技術の向上）、他都市とのベンチマーク⁹⁶などに応じて、PDCAが徹底されている状態。</p>
<p>目標</p>	<p>【3年度まで】</p> <p>〈当初〉</p> <p>2年度 PDCAの徹底に係る新たな仕組みの設計・構築</p> <p>3年度 抽出した施策・事業において新たな仕組みを運用している割合100%</p> <p>〈変更〉</p> <p>3年度 PDCAの徹底に係る新たな仕組みの設計・構築</p>

⁹⁴ 補填財源（財政調整基金）を活用しない収支。

⁹⁵ 施策・事業に必要な要素である企画（Plan）、運営（Do）、評価（Check）、改善（Action）を一貫した流れのものとして捉え、それらを循環させることで、以降の施策・事業の改善に結びつける手法。

⁹⁶ 基準、指標や尺度という意味で、ここでは、本市の事業や業務プロセスなどを改善していくため、他の地方公共団体の優れた事例を参考基準とすること。

	<p>〈実績〉</p> <p>2年度 PDCAの徹底に係る新たな仕組みの設計・構築に向けた検討</p> <p>3年度 PDCAの徹底に係る新たな仕組みの構築(事業進捗管理) 施設のあり方検討において新公会計制度に基づくコスト情報を活用 財務諸表のデータ活用による事業評価の新たな仕組みの構築に向け た検討及び関係所属との調整</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【4年度以降】</p> <p>4年度 フルコスト比較による事業評価の仕組みの構築</p> <p>5年度 構築した仕組みの運用</p>
--	--

取組スケジュール

	2年度	3年度	4年度	5年度
①	仕組みを設計・構築に向けた検討		財務諸表データを活用した事業評価の仕組みを構築	仕組みの運用
		----->	PDCAの仕組み構築	
②	検証・改善しつつ継続	実施		
				>

(凡 例) 制度設計等： ----->

実施： ——>